

(様式1)

令和6年度 学力向上を図るための全体計画

学校名	墨田区立梅若小学校
校長名	安藤 芳典

1 本校の学力に関する状況

(1) 墨田区学習状況調査結果から

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none">・本年度2年生国語・算数、4年生社会・算数・理科、5年生社会において全国平均を上回った。・6年生算数・理科において標準スコアの昨年度比で3~5ポイントほど大きく改善している。・教科別では、算数・社会・理科において昨年度比で向上している様子が見られる。・本年度の傾向としてC,D層児童割合の改善が全学年、全教科で見られた。例として6年生算数ではR5年度D,E層50%から41.5%への向上がある。2年生D,E層29~31%、3年生D,E層32%前後、4年生D,E層34~43%、5年生D,E層38~46%と昨年度60%前後からの大きな改善である。・全学年においてC層の減少とB層の増加傾向も本年度の特徴である。全学年C層は4~12%、B層が30~50%となっている。・A層の増加傾向が見られる。昨年度全児童比で1~4%から4~15%ほどへと増加している。・国語では、どの学年も「読むこと」や「情報の扱い方に関する事項」について全国平均を上回っているか、良好な傾向にある。・社会では、4,5年生で各領域・観点共にバランスある結果となった。朝学習時の復習や振り返りシート、データベースの活用が効果を上げたと考えられる。・算数2年生では各領域・観点共にバランスがとれている。3年生では、データの活用で全国平均を超えている。九九道場の成果でかけ算に関する設問は概ね全国平均以上か同等程度となった。4年生では、「知識・技能」の観点や「測定」の領域で向上が見られた。5年生では、	<ul style="list-style-type: none">・3年生の国語・算数においては、標準スコア全国平均比で2.5ポイントほど下回った。4年生では国語が全国平均比2ポイント、5年生では算数が0.8ポイントほど下回っている。しかしながら昨年度比ではどの学年も若干の向上が見られる。・6年生では全教科において全国平均を下回っているが、国語記述、算数、理科では標準スコアの昨年度比で3~5ポイントほど向上している。・国語では、どの学年も「書くこと」に課題があり、解答形式としても記述形式が最も弱い。一部の学年では、漢字の書き取りに課題があり、漢字一気学習の成果が出ていない。反復学習が必要である。また、漢字の読み取りでは「お」の長音表記で多くの間違いが見られた。・社会では、解答形式の中で記述式に課題がある。国語と同様な傾向である。4年生では地図記号や方位など基礎知識の定着をさらに重視する。6年生の社会については他教科と比べて最も回答率が低い。・算数3年生では全般的に全国平均を下回っており、特に正答率40%台の割合が11%程度あることが大きな課題であり、この層を引き上げることが最も必要である。4年生では、「図形」特に「円」と「データの活用」領域が相対的に低くなっている。5年生では、「変化と関係」領域や「知識・技能」観点で相対的な課題が見られる。小数の四則計算技能は確実に定着させる。6年生では、分数・小数の計算の他、速さや割合などの復習が必要である。

<p>「図形」領域と「思考・判断・表現」観点で成果が見られた。昨年度までの傾向であった「学年進行と共に正答率が低下する」ことは、本年度見られなくなった。</p> <ul style="list-style-type: none"> 理科 4, 5 年生ではほぼバランス良く得点している。朝学習時の理科復習や振り返りシート、データベースの活用が効果を上げたと考えられる。基礎的な知識や技能面で定着が見られるようになった。 6 年生英語においては、担任や NT と児童の学習環境を良好にすることによって効果が出始めている。「読むこと」の観点が優れている。 	<ul style="list-style-type: none"> 理科 4 年生では他教科と同様に、記述解答形式が目標値比で 11 ポイントほど低い。植物や昆虫といった領域が課題である。5 年生では、正答率 30～40%の割合が 15%ほど見られる。底上げをすることが課題である。水に関する領域に課題がある。6 年生は全領域や観点において課題があり、理科に対して楽しさや追究したいという意欲をもたせることが最も大切であるとする。 6 年生英語では、意欲、関心、態度を養うことが最も大切であるとする。
-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

(2) 意識調査結果から

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none"> 自己肯定感は各学年とも比較的高く、全国平均を超えている。学年進行による違いはない。自己肯定感と学力の相関関係は見られない。 いじめに関する多くの設問では、95%以上の児童が否定的な回答をしており、学力層における相関関係は認知出来ない。 朝ご飯や起きる時間、ネット利用や前日の準備等生活習慣の設問と学力の相関関係はどの学年も見られない。 	<ul style="list-style-type: none"> 家庭学習について全くしない比率が 3 年生 20.7% 4 年生 32.2% 5 年生 29.4% 6 年生 39.6%とかなりの高率ではあるが、昨年度と比較すると多少減少してきた。家庭学習の習慣づけを今後も重点的に行う。学力との相関関係は高い。 自分の意見や考えを主張できない比率が高い。高学年では 50～70%程度が否定的な回答をしている。 自分の意見を主張するという設問に対して 3～6 年生の全ての学年で 50%前後となっている。昨年度と比較して 6～8 ポイント全学年で低下していることは改善の兆しである。

2 本年度の学力向上に関する主な取組

(1) 学力向上に関する年間の取組

時期	取 り 組 み
5月	<div style="display: flex; justify-content: space-between; align-items: center;"> <div style="writing-mode: vertical-rl; border: 1px solid black; padding: 5px;">「梅若タイム」毎週木曜日6校時</div> <div style="writing-mode: vertical-rl; border: 1px solid black; padding: 5px;">プラムスクール・放課後学習</div> <div style="writing-mode: vertical-rl; border: 1px solid black; padding: 5px;">九九道場 三年生</div> <div style="writing-mode: vertical-rl; border: 1px solid black; padding: 5px;">九九道場 二年生</div> <div style="writing-mode: vertical-rl; border: 1px solid black; padding: 5px;">朝学習 火水金土曜</div> <div style="writing-mode: vertical-rl; border: 1px solid black; padding: 5px;">校長模範授業と研修</div> <div style="writing-mode: vertical-rl; border: 1px solid black; padding: 5px;">若手授業研究会</div> <div style="writing-mode: vertical-rl; border: 1px solid black; padding: 5px;">算数少人数4展開 管理職</div> </div>
6月	
7月	
9月	
10月	
11月	
12月	
1月	
2月	
3月	
4月	

学力向上委員会は学力向上主任を中心として校長、副校長、主幹教諭、研究主任、学力向上担当教諭で構成する。全校をあげた組織的な徹底取組を行う。毎月1回、進捗状況を把握し手だてを打つ。

児童の実態から令和6年度目標

「復習＋授業＋練習」の1時間の授業の流れと家庭学習の習慣化。予習の定着。

基礎基本の徹底定着と忘却率を緩やかにする。(3日、3週間、3か月スパン)

- ① 3日以内の忘却防止 授業内復習、授業内練習、朝学習
- ② 3週間以内の忘却防止 家庭学習、宿題、朝学習、AI徹底復習と練習
- ③ 3か月以内の忘却防止 振り返り期間、補習教室、九九道場、梅若タイム、類似問題
- ④ 振り返りシートやデータベースを活用した復習の定着促進。全学年全教科
D層を全体の35%未満にし、C層への底上げを3ポイント増やす。全学年正答率前年度比3%以上向上。

(2) 梅若学習メソッド

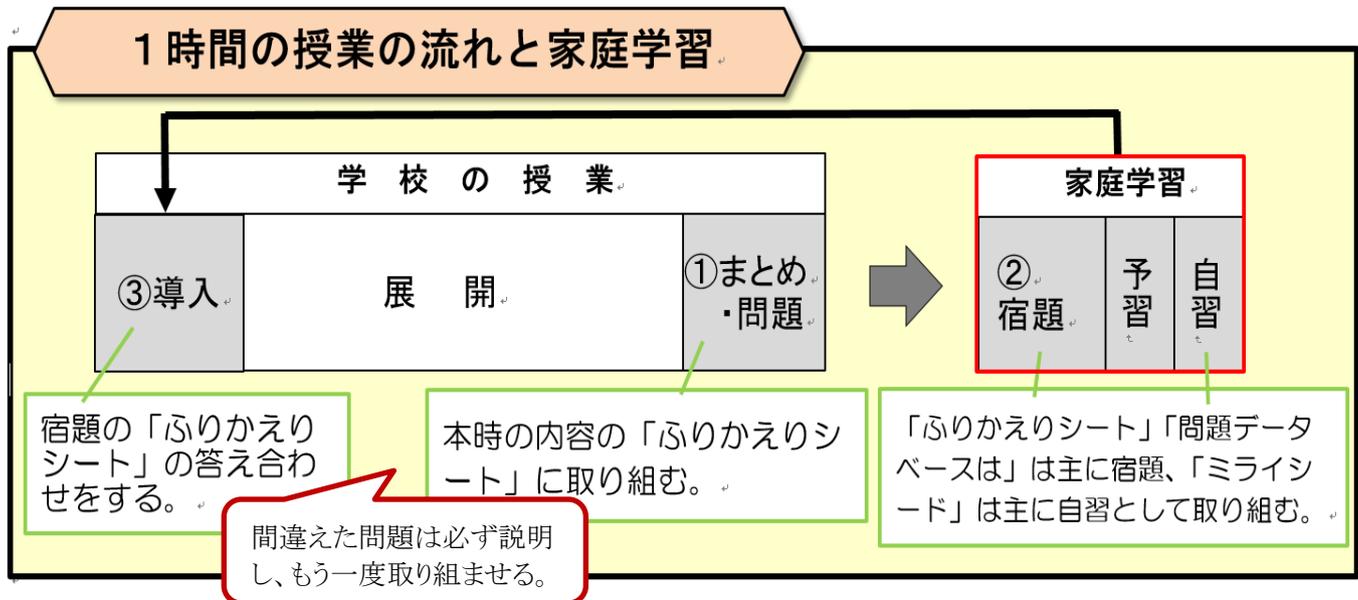
1. 朝学習の設定

月曜日	1～3年生 全校朝会	4～6年生 全校朝会
火曜日	1～2年生 漢字、かな	3～6年生 漢字(アプリやシート等)

水曜日	1～2年生 漢字、かな	3～6年生 社会科、理科(アプリやシート等)
木曜日	1～2年生 読み聞かせ	3～6年生 読み聞かせ
金曜日	1～2年生 算数	3～6年生 算数
土曜授業	1～3年生 算数	3～6年生 算数(アプリやシート等)

2. 復習と練習の徹底で、学習事項の確実な定着を図る。「復習+授業+練習」の1時間の授業形式

<学校の指導と家庭学習を組み合わせた指導の流れ例>



- 1～3月を徹底復習期間として、振り返りシートや類似問題で定着を図る。
- 教育研究所データベース活用の練習問題実施の徹底(理科、社会) 朝学習や梅若タイム。
- ふりかえり期間 7月、9～10月、12月、1月～4月(授業後の練習問題や朝学習、宿題)では、学習進度に合わせて、振り返りシートだけでなく、市販プリント等も柔軟に活用する。
- 類似問題の取組 毎週2回以上朝学習や家庭学習で行う。ページを細分化して短時間実施。
- 漢字の一気学習を前期7月、後期1月までに終え、以降反復練習によって定着率を向上させる。
- 未習熟者対象の九九道場と筆算道場の設置(毎日休み時間2回)2,3年生対象
- 社会科・理科の毎単元総復習の徹底、練習問題の徹底、朝学習での復習
- ターゲット補習学習 チャレンジスクール(3年生)木曜日、プラムスクール(B,C層)・金曜日、補習教室(D,E層)火曜日 希望制からターゲット指名制とする。
- 5,6年生の算数指導を4展開とする。(D,E層を対象に管理職が行う。)
- 年度内学習効果の効果測定を行う。(算数1月)
- 毎週木曜日1時間を「梅若タイム」として、各教科の復習や定着を図る学習を行う。
- 作文学習 1～2年生100字、3～6年生200字 毎週末の宿題として全員が取り組む。

(3) 梅若授業改善メソッド

- 梅若スタイルの設定 授業方法のモデル化の定着(下記)
- 校長による課題解決学習法の模範授業研修会(各学級1回以上)を年間12回以上行う。
各教科別の学習過程を明らかにし、授業実践する。
- 児童による課題の自己採点力の向上。進む児童の次課題の提供と遅れている児童への個別指導。

4. 若手授業検討会(4人×3回 時間外 OFF JT、自由参加)
5. つまづきの解説を重要視し、その後の再学習によって確実に定着させる。
6. エピソード記憶の重視 NHK for school や動画などを活用し、教え込みにならない指導。
7. 学力調査の前年度問題を日常的に参考にして、つまづき傾向に対する徹底的な補充をする。
8. 振り返りシート以外にデータベースを活用し、社会科と理科の定着を図る。

(4) 課題解決学習指導)方法の定着

梅若学習スタイル

全学級が統一した学習方法を行うことで、児童に課題解決学習方法が身につく。(教室掲示)

1. 復習をする。
2. 今日の問題を知る。見通しをもつ
3. 学習課題を立てる。(青囲み、青字) めあての提示
4. 自分で考える。
5. 友達と考える。
6. まとめる。(赤囲み、赤字)
7. 練習問題を解く。

※ 学力向上のための梅若小学校の共通認識

(各学年修了時までには必ず身に付けさせておきたいこと)

- | | |
|------------------------|------------------|
| 1年生 10の合成 繰り上がり下がりの加減算 | 2年生 かけ算九九 |
| 3年生 わり算 ローマ字 | 4年生 小数、分数、47都道府県 |
| 5年生 小数四則計算 | 6年生 分数四則計算 |

3 「令和6年度 墨田区学習状況調査」における目標

(1) 目標

- ・各学年各教科ともD層の割合を3ポイント減らす。B層の割合を3ポイント増加させる。
- ・各学年各教科とも平均正答率の3%以上向上
- ・各教科の基礎分野の平均正答率を全国平均に近づける。
- ・児童アンケートによって授業が楽しいと答える児童を80%以上にする。算数の授業が分かると答える児童を85%以上とする。(1月まで)
- ・同一集団の成長過程において、全学年が令和6年度比で向上させる。